

## = 世界のスキー指導者が最新指導法・理論を発表 =

4年に1度、世界中のスキー指導者・スキー教師が集まるインタースキー。

日本では1979年に蔵王、1995年に野沢温泉で開催された。そしてこのインタースキー傘下にある3つの組織(現在はそれぞれ“連盟”を名乗っている)がIVSI(国際スキー指導者連盟/スキークラブを中心としてアマチュアのスキー指導活動)IVSS(国際学校体育スキー連盟/学校・大学の教諭などによるスキー指導活動)そしてISIA(国際職業スキー教師連盟/スキースクールのスキー教師の指導活動)である。

全日本スキー連盟はそのうちのIVSIとIVSSに加盟している。

日本スキー指導者協会としては組織の構成・性格そしてその名称からいっても全日本スキー連盟を通じてインタースキー傘下の3組織の中ではこのIVSIの情報や活動状況を把握しておくことをお勧めしたい。

今年の4月2日～9日オーストリアの高級リゾートレヒでIVSI総会が開催され、全日本スキー連盟から代表団として10名、視察団として11名 合計21名が参加した。

参加国は16カ国358名(北米やフランスを除くラテン系の国はスキーの指導をほとんどスキースクールで対応しているため加盟していない)今回参加したのはドイツ、オーストリア、スイスの中央ヨーロッパのアルペン国、そしてそういった国を囲むように北欧・東欧の国々、更にはオランダ・イギリスなどのいわゆる“雪なし国”そしてアジアから日本と時期インタースキー開催国の韓国である。

前回ポーランドで開催されたIVSI総会は「検定」がテーマとなったが今回は「技能・技量・技術を通じて“できる”喜びを」というタイトルで「指導」が大きなテーマとなっている。

オーストリアは開催国としてあらゆる分野の指導者を用意できるため、デモンストレーションもワークショップも多彩な発表となった。アルペンスキーはもちろん、クロスカントリー、テレマーク、バックカントリー、ファンスキー身障者・子供そして最後は地元レヒスキースクールの受講生まで加わってのデモンストレーション。講演ではアルペン王国らしくワールドカップのSLトップレサーの滑りを分析し、ターン後半での過度な後方への荷重が次のターンへの推進力となっていることなどの発表。最終日にはワールドカップの応援団として活躍している子供の楽団まで登場して会場を盛り上げた。

ドイツは「成功までの12の道のり」と称して、指導レベルを細かくわけて12通りの指導として発表。ドイツらしい精密できめの細かい

内容であった。

ポーランド、ハンガリー、ベルギーはあまり最新のカービング要素を用いない極めてオーソドックスな発表となった。しかし、東欧はスキー産業がまだまだこれから伸びていくことが予想され、ベルギー、オランダ、イギリス、デンマークはインドアスキー場の増加に伴いスキー指導者の要請が急務となっているため、見てもスキーへの熱意が感じられた。また、最終日に往年のオーストリア、ドイツを代表するデモンストレーターによる「70+」という発表があり(70歳以上のデモ)ローテーション、バインシュピール、ステップターンから最新のカービングターンまで披露し拍手喝采、日本だけではなく世界中どこでも“年配スキーヤー”は元気なようだ!

日本の発表はワークショップを若月・中田・佐伯(当時)の3人のデモが担当、講演はSAJ教育本部イグザミネーター委員会の市野先生が発表した。結果としては内足主導(トップコントロール)が斬新で興味深いという評価(ベルギー、スイス、ドイツなど)を得た一方、「やはりスキーは今も昔も変わらない。やっぱり外足がすべてだ!」(オーストリアのベテラン指導者)という“頑固一徹”な意見もあった。

日本は今や指導者の人数が多いアジアの国というのではなく完全に世界のスキー指導の“トレンドセッター”として認知されていることを痛感した。

次回の総会は2007年1月27日～2月3日、韓国ヨンピョンスキーリゾートで開催されるインタースキーのプログラムの一部として開かれ、その2年後の2009年は再びポーランドでの開催が予定されている。

日本スキー指導者協会の皆様には韓国でのインタースキー、あるいは2009年のIVSI総会にできるだけ多くの方々にご参加いただき世界のスキー指導の実態を“体験”していただきたいと思っております。



IVSI(国際スキー指導者連盟)副会長  
(財)全日本スキー連盟  
教育本部 国際渉外委員長

田 和夫

I V S I 視察団に参加して

期日 2005年4月2日～4月11日

会場 オーストリア(レヒ他)

オーストリア、チロル地方の広大なアールベルグスキーエリア。スキー場の大きさに感銘。天候に恵まれ素晴らしいパノラマを堪能できました。スキー先進国の指導者の技術、考え方、指導方法について、言葉の壁はありましたがワークショップに参加し、内容については自分なりに理解できました。各国の指導者との交流もスキーという共通意識も有り心が通う交流が出来たと思います。特にビールがおいしかった。



今回参加して各国の指導者のスキーに対する情熱を感じました。

また、参加して宝物を得る事が出来ました。

1) 1992年アルペールヒルオリンピックダウンヒルゴールドメダリストパリックスさんに会え写真を撮る事が出来た。



2) ウィーン滞在中、世界の名指揮者、小澤征爾さんに会えお話ができた事。



3) 運営に携わられた、全日本スキー連盟役員各位、及び関係各位の皆様と愛媛県スキー連盟の方々にお会い出来た事。



以上、私のスキー人生の中で3つもの宝物が得られました。今回のツアーにお礼を申し上げます。ありがとう御座いました。



神奈川県スキー指導員会  
参与 島村 一男

photo KShimamura